

京都府の肝炎対策についての要望

平成 29 年 6 月 6 日

京都府肝炎対策協議会委員 田中征一郎

1 京都府の肝炎対策の現状と課題

(1) 京都府の肝炎対策の計画策定状況

- ・ 京都府保健医療計画（肝炎対策全般） 約 2 頁
- ・ 京都府がん対策推進計画（肝がん対策） 3 頁

→肝炎対策に関連する内容は、合計で 5 頁しかなく、しかも両者は重複している部分がある。したがって、肝炎対策については、2つの医療計画が存在するが、肝炎対策の実質的な計画内容は、重複部分を考慮すると、約 3 頁程度しか記載されておらず、不十分であると言わざるを得ない。

また他の地域と比較しても、肝炎対策の実効性を確保するという意味でも、現在の計画は、きめ細やかなものであるとは言えず、不十分であると考え

以上から、きめ細やかな肝炎対策を実現するためには、肝炎対策に特化した医療計画が必要であると考えます。

(2) 京都府の肝炎対策の遅れの実例

京都府のウイルス検査の受検者数は、全国的にもかなり低位置である

(47 番中 44 番)。(厚生労働省の肝炎対策協議会の資料)

全国のトップ 4 (佐賀、鳥取、福井、静岡) は、いずれも肝炎対策に特化した計画を策定している。

特に佐賀県は、ウイルス検査の広報に力を入れ、ウイルス検査の受検者数が飛躍的に伸び、全国 1 位となっている。

京都府にも、これらの自治体と同程度の肝炎患者が見込まれる以上、これらの自治体が行っている対策を取り入れることを検討すべきである。

2 次期計画（保健医療計画）の方向性についての要望

(1) 肝炎対策基本指針

次期計画を策定する前提として、肝炎対策基本指針を踏まえる必要がある。

計画を策定するにあたり、肝炎対策基本指針のうち、特に重要なポイントは次の 3 点である。

- ① 肝硬変・肝がんへの移行者を減らすことを目標とし、肝がんの罹患率をできるだけ減少させることを指標として設定すること。
- ② 肝炎対策について、都道府県は、地域の実情に基づき、肝炎対策に係る計画、目標の設定を図るよう促すこと。
- ③ 都道府県は、その実施状況の把握、評価及び見直しを実施することが重要である。

上記①から③を実現するためには、現時点の威力計画よりも、より具体的な数値目標や数値目標以外の目標を記載し、きめ細やかな内容を計画に盛り込む必要があるので、肝炎対策に特化した計画の策定が必要である。

また実際、肝炎対策について、きめ細かい内容を盛り込むことができるため、肝炎対策に特化した計画を作成している地方自治体が増えてきている。

(例えば、神奈川県第21回肝炎対策協議会)

さらにいえば、具体的な数値目標を設定し、具体的で細かい内容を記載することで、目標の達成度（結果）が明らかとなり、現在の医療計画に比べ、より中間評価や総括等を行いやすくなると考えられる。また各機関や団体、京都府下の市町村と協議等する場合にも、具体的な数値目標や具体的な目標の設定および達成度（結果）を示すことで実効性のある協議が可能となる。

(2) 京都府の意見

京都府は、肝炎対策に特化した医療計画を策定しなくても、きめ細やかな対応は可能であるとの見解だと思われる。

しかし、上記1 (1) で述べたとおり、実際の今ある計画では、肝炎対策は5頁程度しかなく、きめ細かな対応が可能とは思えない。きめ細かな対応を行うためには、肝炎対策を有効に実施している静岡県や佐賀県の肝炎対策に関する医療計画を参照していただきたい。

特に佐賀県は、具体的な数値目標や目標については、具体的で細やかである。

そして、佐賀県は何よりも、実際に効果を上げており、京都府としても参照すべき点が多いと思われる。

(3) 次期計画の方向性への要望

佐賀県や静岡県等の肝炎対策を有効に実施している地域の計画を参照し、京都府におかれても、肝炎対策に特化した医療計画の策定を行っていただきたい。

3 次回の協議会に向けての要望

京都府の肝炎対策の計画策定のためには、他の地域との比較を行うことは不可欠である。

それゆえ、京都府におかれては、次回の協議会までに、佐賀県と静岡県の肝炎対策と京都府の現在の計画を比較し、京都府の計画が足りていない点及び優れている点を整理した上で、資料として報告されたい。

以上